

『民間準拠』格差をつけない』を確認し、4/15~16ストを中止

日刊 勤労千葉

82.4.16 No. 1021

国鉄千葉動力車労働組合

千葉市要町二一八(動力車会館)
(鉄電)二九三五・六(会衆) 品三三二七二〇七

「調停委員長見解の提示」「仲裁々定完全実施」にむけ、さらに闘う体制を堅持しよう！

82春闘は、4.15~16スト体制を背景とする決戦段階を迎えた14日夜、公労委が示したの民間賃金準拠の原則を崩さない。②公企体間の格差はつけない。③17日にも調停委員長見解を出す。などの点を受け入れ、全体として收拾された。

このように、82春闘決戦段階の闘いは極めて異例な事態の中で收拾されていったのである。

統一準備会、「行革」オニ臨調に押しまくられた82春闘

82春闘は、21年ぶりの「国鉄・私鉄ストなし」春闘として收拾された。

この極めて危殆的な事態は、右翼労戦「統一攻撃」の進行、官公労とりわけ公労協「国鉄労仲運動」に対する「行革」オニ臨調攻撃のさまざまの激化に早々に屈服し、協力している中で、ある意味では危惧され予期された。鈴木首相をして公労協の決戦スト前日の14日に、「今の状況では、ストは出来ないだろう」といふところまでいせ、自民党一部の「国鉄にストをやらせて叩き、一気に国鉄改革をやる」などと全くなめられ切った82春闘であったのだ。

しかし、多くの国鉄労仲者は、この間の「ヤミ・カラ・悪慣行」キャンペーン「国鉄労仲運動解体攻撃の激化に腹の底からにえかえる怒りをましますもやしているのだ。

勤労本部革マル反動分子や組合中央幹部のように、「情勢が厳しから闘うべきではない」として、国鉄当局の攻撃を許すならば、際限もなく後退を強いられるのだ。

勤労千葉は、具体的賃上げ額が出されないというかつてない異例な事態の中で、公労協スト中止に大きな不満を持ちつつも、全体情勢を判断し、14日24時をもって4.15~16スト及び関連する一切の闘争準備体制の解除を指令した。

極めて異例の事態の中で收拾された82春闘

勤労千葉は、82春闘新賃金要求について、各支部・拠点における万全の闘う体制を背景として、対当局交渉、さらに13日以降、公労委への調停申請事情聴取など精力的な取り組みを行ってきた。

4月14日、公労委は、勤労千葉の賃金要求について、関東地調委からの上移にもとづき、調停委員会を発足させ、同日、15時40分から一回事情聴取が行われた。

事情聴取を終えた公労委は、18時すぎ公益側委員会会議を開き、①14日の段階では、民間の平均が半数にも満たない。②従って具体的な賃上げ額を調停委員長見解として出すことは困難。この理由で調停作業は一時中断された。そして、この間、各委員の折衝が行われ、22時から「公労委全員懇談会」が開かれた。

この中で、①「民間賃金準拠」の原則を守る。②公企体間の格差はつけない。③17日にも調停委員長見解を出す。④仲裁々定完全実施に努力する、などについて確認した。

これを受けて、各組合は、「調停委員長見解として具体的な賃上げ額の提示はなかったが、基本的な要求について受け入れられた」として、15~16ストライキの中止を決定し、指令した。

こうして、82春闘決戦段階の闘いは極めて異例な事態の中で收拾されていったのである。

統一準備会、「行革」オニ臨調に押しまくられた82春闘

82春闘は、21年ぶりの「国鉄・私鉄ストなし」春闘として收拾された。

この極めて危殆的な事態は、右翼労戦「統一攻撃」の進行、官公労とりわけ公労協「国鉄労仲運動」に対する「行革」オニ臨調攻撃のさまざまの激化に早々に屈服し、協力している中で、ある意味では危惧され予期された。鈴木首相をして公労協の決戦スト前日の14日に、「今の状況では、ストは出来ないだろう」といふところまでいせ、自民党一部の「国鉄にストをやらせて叩き、一気に国鉄改革をやる」などと全くなめられ切った82春闘であったのだ。

しかし、多くの国鉄労仲者は、この間の「ヤミ・カラ・悪慣行」キャンペーン「国鉄労仲運動解体攻撃の激化に腹の底からにえかえる怒りをましますもやしているのだ。

勤労本部革マル反動分子や組合中央幹部のように、「情勢が厳しから闘うべきではない」として、国鉄当局の攻撃を許すならば、際限もなく後退を強いられるのだ。



「ストなし春闘打破！」青年部210名が独自の千葉市内平野を闘った。(4月13日、夜)

今こそ、勤労千葉の真価が問われるとき

82春闘がこのようなさまざまな形で收拾されたことにより、今後ますます「行革」オニ臨調攻撃・国鉄労仲運動解体攻撃が激化することは確実である。

現に、東京三局は、「現場協議の確認事項を一方的に破棄する」「拒否すれば業務命令」との強硬方針を決定した。(スト中止の当日)

4月15日の朝日新聞・朝刊一面トップ記事という扱いを見よ、

全この国鉄労仲者の皆さん、われわれは、このまま座して死を待つわけにはいかない。

国鉄労仲者の戦闘性は、いまも健在である。わが勤労千葉は、この戦闘的国鉄労仲者と共に労働運動の原則を堅持して闘いぬこう。